



Sponsor a Child

# クリスチャンパートナーズ

## 通信第 83 号

- 
- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2011 年 3 月 17 日                                | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ              |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原<br>2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317          |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994                          | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
|   | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/     |
- 

### 「わたしが与える水」

理事長 木ノ内一雄

(ヨハネによる福音書 4 章 7 節 ~ 26 節)

サマリアのシカルという村の暑い昼下がりのことでした。一人の女が村はずれにある井戸に水を汲みにやって来ました。村の女たちは朝早くその日に必要な水を汲みます。この女は他の女たちと顔を合わせたくなかったのでしょうか。井戸には一人の男が座っていました。ユダヤ人で旅に疲れて休んでいたのです。女は男と目を合わせることなく水を汲もうとしました。すると男は声をかけたのです。「わたしに水をください」。女は驚きました。ユダヤ人とサマリア人とは交際していませんでした。また男が女に話しかけるといこともなかったのです。それに対し男は、「もしあなたが、神の賜物を知っており、また『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるのか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きる水を与えたことであろう」と言ったのです。

わたしたちは知っている人であれば、求められるまでもなく水を汲んであげたでしょう。もしそのお方が神であるなら何杯でも水を汲んで差し上げたことでしょう。家にもお連れし、何でも与えたことでしょう。しかし、知らない人とは関わり合いたくないのです。

わたしたちは主イエスがどのようなお方なのか、また主イエスがわたしたちに与える「神の賜物」が何であるかを知りません。主イエスがわたしたちに御自身を啓示されることなくして、神が人となられたお方であることを知ることはできません。また、主イエスから受けることなくして心の飢え渴きを癒す水がどのようなものであるかを知ることはできません。

主イエスは神であるにもかかわらず、わたしたちよりもっと低くなられ、「わたしに水をください」と言われます。それは主イエスが、「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのです」と言われたこと、そして十字架の上で「乾く」(『わたしに水をください』)と言われたことに重なります(マタイによる福音書 25 章 40 節、ヨハネによる福音書 19 章 28 節)。それはわたしたちの周りに「小さい者」(弱い者、貧しい者)がいるなら、それは主イエス御自身かもしれないということです。

わたしたちは途上国の子供たちに学費援助をしていますが、それは人道的な立場ということだけでなく、少しでも主イエスのどのどの渴きを癒したいと願っているからです。わたしたちが与えることのできる「水」と「神の賜物」とでは比較になりません。主イエスがおっしゃる「わたしが与える水」はわたしたちの心の中で泉となって飢え渴きを癒し、永遠の命に至らせるからです。

2010年度のCEO会議はスポケイン(ワシントン州)で10月28・29日に開かれました。スポケインは米国PIの本部がある市で、会議は湖に面したセミナー会場で行われました。出席者は米・英・カナダ・オーストラリア・シンガポールの代表者と私の計6名、それに何人かの招待者でした。

私にとって二度目の会議でしたので、前回より他の出席者と親しく交わることができました。議事の内容は各国の活動報告とプロトコルと呼ばれる、宣教協約のすり合わせが主でした。前回のバンクーバーCEO会議では各国の活動報告に時間をかけましたが、今回はプロトコルに時間をかけました。

私からはアフリカのガーナへの支援について、また、SACを現在の西カリマンタン州から他の地域や国に広げたいこと、そのために他のパートナーズとの協力を考えたいといったことを報告しました。

3日目は本部事務所会議室でスポケインへの移転10周年記念会があり、私も事務所の方々の前で挨拶する機会が与えられました。彼らの中には肉親や知人が日本にいたり、また様々な関わりがあったりして有意義な交流の機会となりました。また、たまたま出張で来ていたセネガルのルネ・ムボンゴ氏と会い、意見や情報を交換することができました。夜は別会場で市長や関係者などを招いた記念祝賀パーティーが開かれ、それにも出席できました。多くの人と組織が海外での宣教に関心を持ち、支援しているのを実感しました。

なお、2011年に米代表ジョン・ルイス氏と一緒に、私がアフリカのガーナ、セネガル等を訪問することを合意できたことは大きな収穫でした。ムボンゴ氏もまた、ルイス氏と私のガーナ訪問に同行したいとのことでした。この計画が実現するよう、また有意義なものとなるように覚えてお祈りください。

国や民族を越えてクリスチャンは一つの家族であること、そして日本の福音宣教の働きのため、またわたしたちの活動について多くの人々の祈りがあるのを覚えさせられました。

インドネシア、西カリマンタン州ロバン村教会のトーマス・ジュニアルディ牧師(Thomas Juniardi)より、2010年9月に到着した近況

支援者の皆様、

主イエス・キリストの御名によって、皆様にご挨拶をお送りします。

私たちのところには、現在57名のSACで支援していただいている子どもがおり、みな健康です。その一人は学級で成績が2番になりました。どの子どもも成績がよくなっています。

教会学校は日曜日の朝7時に始まります。全部で130人の子どもが出席します。それに加えて、毎木曜日の3時からティーンエイジャーのための勉強会も開いており、その夜6時半からは祈禱会があります。ティーンズの集まりは毎金曜日6時半からです。

今年は、年代のちがう子供や大人たちが一緒にクリスマスを祝う計画を立てています。洗礼式も行われます。

感謝と祈りの課題：

1. 私たちは今、自分たちの場所と言えるところで礼拝を捧げられることを感謝します
2. ロバン教会の不動産取得の手続きが順調に行きますように。長く時間のかかる仕事です。
3. SACで援助されている子どもたちが、霊的にも、知的にも社会生活においてもすこやかに成長しますように。
4. 子どもたちの親には教会学校に出席することに反対の者もいます。キリストを知る機会をさまたげる障害が取り除かれますように。
5. 私たちの教会が質的にも量的にも成長しますように。



ロバン教会の教会学校生徒たち

6. 私たちのクリスマス祝会と洗礼式が、主に喜ばれるものでありますように。クリスチャンでない友人たちがたくさん出席して、福音に接することができますように。
7. 地方政府がロバン地区を開発しようと、住居や商店を教会の周りに建てるという話です。そこに来る人たちに、私たちが伝道できますように。

皆様がいつも私たちのために祈ってくださることに感謝します。どうぞ、これからも祈りのうちにお覚えください。 主にあって、牧師トーマス・ジュニアルディ

《シンガポール事務所からの報告によると、ロバン教会の土地建物の取得手続きは、ようやく完了したそうです。日本からも多額の支援をしていますので、喜ばしいことです》

高橋めぐみ宣教師を通して、昨年7月から

ジュリアナ (Juliana)

パンチャカルサ商業高校 1年 (SMK Panca Karusa)

将来の夢：神さまの計画の中で、ビジネスウーマンとして成功したいです。

父の仕事：農業

皆様のご支援によって、学業を続けることができ、神さまに心から感謝しています。学校の勉強は楽しいです。神さまは良いお方で、私が悩んでいた時も放って置かれませんでした。神さまの計画はいつもすばらしく、助けが遅れることはありません。

私の学費を援助してくださっている日本の皆さん、ありがとうございます。お陰さまで高校での学びを続けることができます。私は何もお返しできませんが、ただ神さまが皆さんの親切に報いて下さるようにお祈りするのみです。



ご援助のおかげで学校での学びには問題ないのですが、ぜひお祈りいただきたいことがあります。それはバスでの通学で、中高生を乗せたがらない乗務員がいることです。彼らの心が開かれて、バスに乗せてくれるように祈ってください。神さまと支援者の皆様に感謝します。神様の祝福がありますように。

高橋先生から一言：ジュリアナさんは、プニティ教会の礼拝に出席しています。経済的理由で中学を卒業して働く予定でしたが、クリスチャン パートナーズからの援助で高校進学が可能になりました。学生の運賃は正規の三分の一なので、バスは学生を乗せたがりません。プニティ教会は、1990年に交通事故で亡くなられた故安東栄子宣教師を記念して立てられた教会です。

スサルド アナコット (Susard Anakotto)

パンチャカルサ商業高校 1年

高橋先生からの一言：11人兄弟の7番目です。3月に父親は木から落ちる事故で亡くなりました。母親が長らく病気なため、子どもたちは親戚などに引き取られています。

スサルドは、アンジュンガンに居るおばさんのところに、姉と弟と3人で生活しています。アンジュンガンは神学校のあるところ  
るです。



木ノ内理事長夫妻が支援しておられたマルティヌス兄が神学校を卒業され、同校の教務課勤務となり、2010年7月10日に結婚されました。

## マルティヌス兄ご結婚に寄せて 木ノ内和美

この程、高橋めぐみ先生を通して嬉しいニュースが届きました。アンジュンガン ATI 神学校に在籍中(2003~2009年)支援していたマルティヌス兄の結婚式の写真を送って下さったのです。2003年2月アンテオケ宣教団の安海先生主導のツアーに他の理事たちと参加した際、神学校での卒業式に出席したのを機に神学生を支援することにしました。高橋先生にご紹介いただいたのがマルティヌス兄でした。彼は真面目で努力家。2009年1月に優秀な成績で卒業すると、YPPI 西カリマンタン支部でしばらく奉仕した後、今は神学校の教務課勤務です。神学校の大学院コースの学びもしており、将来は神学校で教鞭をとりたいとの希望を持っています。新婦のウニタさんは、神学校の教授をしておられます。お二人で築く新家庭に祝福が豊かにありますように祈っています。心よりおめでとうございます。

(「通信」第67,70,77,79号参照)



勤務中のマルティヌス兄  
ダヤク族の衣装での結婚式

三重県出身の藤江皆栄(みなえ)牧師は、アンテオケ宣教会から宣教師としてインドネシアへ派遣され、言語習得の後、高橋めぐみ宣教師と同地域で働かれる予定です。

理事会ではご出発前にお近づきになりたいと願い、11月の理事会の前にお招きして、その抱負や活動予定を伺いました。

【写真は藤江宣教師のNewsletterより転載 左：高橋師、中央：藤江師  
右：塚田真理子師(聖書翻訳協会)】



【理事会報告】第165回理事会は2010年11月8日(月)一ツ橋学生会館で開催。2010年9月度会計報告承認。10月度報告は後日送付。里子・里親の異動報告：里子47名、里親総数70余名。里子の手紙・クリスマスカード到着、翻訳、発送済み。9月米国で開催のCEO会議報告。ガーナプロジェクトについては、2011年春に理事長による現地視察を行ってから方針を決定する。

理事会開催前に、近々インドネシアに赴任されるアンテオケ宣教会の藤江宣教師を招き、歓談した。

第166回理事会は2011年1月13日(月)一ツ橋学生会館で開催。前回議事録承認。2010年11・12月度会計報告承認。SAC文通関係事務がシンガポールからマレーシアCNECに移動。新高校奨学生2名の写真と、マルティヌス兄の結婚式の写真を回覧。「通信」第83号の内容を協議。理事長から提示された「新援助規定」について協議。管理が煩雑になり、現状では掌握できないであろうと判断した。

第167回理事会は2011年3月7日(月)一ツ橋学生会館で開催。前回議事録承認。2011年1・2月度会計報告承認。理事長のアフリカ視察旅行は9月か10月に行われる。「通信」第83号原案を承認、3月17日発行予定。高橋宣教師が帰国されるので、理事会との懇談の時を計画し、竹澤理事が連絡する。支援会員数減少に対処し、新会員勧誘について協議。第168回理事会は2011年5月9日一ツ橋学生会館で開催予定。

編集後記 しばらく間が空きましたが、今号はいろいろのニュースが集まり、お送りできるようになりました。活字を小さくしたので読みにくいところもあるかと思いますが、お許しください。年度の変り目には、皆様のご生活にもいろいろ変化があることでしょう。楽しい春が来ますように。鳥海百合子